

■松平慶永(春嶽) 福井藩主。盛んに意見上申して国政に参加。公武合体には挫折したが、徳川家存続は果たした。

まつだいらよしなが
シボク事件・1828＝ 江戸城内の三卿の田安家の八男に生まれる。

大塩平八郎乱1837＝ 9歳：
適塾ホヰン・ 1838＝10歳： 將軍徳川家慶の命により、福井藩を相続して藩主となり、

水戸藩主徳川斉昭を訪問して教えを受けて、

順天堂始・・1843＝15歳： 初入門。
徳川斉昭の影響のもとに、財政整理、西洋式兵制採用、銃砲・火薬製造、造船事業などに努力、

阿部正弘首座1845＝17歳：
孝明天皇・・1846＝18歳： 種痘法をも積極的に採用し、藩政に治績をあげて行く。
・・・・・1848＝20歳： 実父が死去。初めて一橋慶喜と会う。

ペリー来航・1853＝25歳： *ペリー来航後、斉昭と親しく親戚でもあった老中阿部正弘に盛んに意見上申し、国政参加へ意欲みせる。

安政大地震・1855＝27歳：
將軍家定が凡庸多病のため、外圧に対処し国内体制を固めるには英明な將軍擁立を第一と、島津斉彬、山内豊信(容堂)、伊達宗城らと連絡し、橋本左内の補佐のもと一橋派運動に努力したが(將軍継嗣問題)、

五ヶ国条約・1858＝30歳： 紀州慶福(家茂)を推す井伊直弼が大老となって、隠居謹慎の処分をうけ、
安政の大獄・1859＝31歳： 左内もく安政の大獄で刑死した。
桜田門外変・1860＝32歳： 井伊直弼が暗殺され、

生麦事件・・1862＝34歳： *將軍後見職一橋慶喜とともに政事総裁職として政界に復帰、横井小楠の助言をうけながら幕政改革、公武合体運動に従事したが、朝廷・外様雄藩勢力の上昇で、しばしば苦境に陥り辞職、帰国を繰り返した。

禁門の変・・1864＝36歳：
薩摩藩士密航1865＝37歳： 第2次長州征伐に際しては中止を主張、

明治維新・・1868＝40歳： *く島羽・伏見の戦>が起こると宗家徳川家存続のため必死に周旋、目的を達するも、新政府においては議定、内国事務総督、民部卿、大蔵卿を歴任したが実権はともなわず、
初の日刊新聞1870＝42歳： *大学別当兼侍読を最後に、一切の官職を辞して、以後文筆活動に専念。また麝香間祇候となり、

以後、明治天皇の信任を受ける。

明治6年政変 1873＝45歳：

西南戦争・・1877＝49歳：

琉球処分・・1879＝51歳：「逸事史補」が完結、

明治14年政変1881＝53歳：
新体詩抄・・1882＝54歳：
岩倉具視没・1883＝55歳：「閑窓秉筆」が完結するなど、

多くの著作を遺して、

帝国憲法発布1889＝61歳：
帝国議会始・1890＝62歳： 没した。